

鬼北町立広見中学校
道徳通信
道徳主任 酒井 智有
NO. 86
令和8年9月3日発行

よりよく生きる

2学期がスタートし、生徒たちは元気に学校生活を送ることができています。今回は、体育祭にちなんだ感動するエピソードを紹介します。御家庭で話を読んでいただき、結果以上に大切にしなければならないことにはどのようなものがあるのか、話し合う機会をつくっていただけると幸いです。

諦めなかった最後の一步

中学校最後の運動会。私たちにとって、この日が仲間と全力で競い合える最後の機会でした。学級みんなは優勝を目標に、朝練や放課後の練習を重ねてきました。私もクラス対抗リレーのアンカーを任せ、「絶対に期待に応えたい」という思いで本番を迎えました。レースが始まると、どのクラスも真剣そのものでした。声がかかるほど応援する仲間たち、懸命にバトンをつなぐ選手たち。その姿を見て、「絶対に最後まで走り切ろう」と心に決めました。しかし、私にバトンが渡ったとき、前のチームとの差は大きく開いていました。必死に追いかけていましたが、焦る気持ちばかりが強くなり、ゴールまであと少しというところで転んでしまいました。膝には痛みが走り、一瞬、立ち上がる気力を失いそうになりました。



そのとき、校庭中に響くクラスメイトの声が聞こえてきました。

「大丈夫!」「最後まで走れ!」

「みんなで待ってる!」

その声に背中を押され、私は立ち上がりました。順位は変わりませんでしたが、最後まで走り抜いてゴールした瞬間、クラスみんなが笑顔で迎えてくれました。

「最後まであきらめなかった姿に感動した。」

「結果よりも、その走りが一番かっよかった。」

その言葉を聞いたとき、悔しさでいっぱいだった気持ちが少しずつ変わっていきました。勝つことだけが運動会ではない。仲間を信じ、応援し合い、最後まで全力を尽くすことこそ、本当に大切なのだと気付いたのです。私たちのクラスは優勝することはできませんでした。でも、誰一人仲間を責める人はいませんでした。みんながお互いの努力を認め合い、「このクラスで本当によかった」と笑顔で話していました。その瞬間、優勝トロフィー以上に価値のあるものを手にしたような気がしました。

運動会は一日で終わります。しかし、仲間と励まし合い、苦しい場面でも前を向いて進んだ経験は、一生の財産になります。これから先、困難にぶつかることがあっても、あの日聞いた仲間の応援を思い出せば、きっとまた立ち上がることができるでしょう。私にとって運動会は、勝ち負け以上に「仲間の大切さ」と「諦めない心」を教えてくれた、かけがえのない思い出です。